

ミチエル・バチェレ・ヘリア・チリ元大統領
ビデオメッセージ 和文仮訳

尊敬する国際賢人会議の委員の皆様、著名な代表団、そして世界平和に尽力する友人の皆様、本日、「核兵器のない世界」に向けた国際賢人会議の第3回会合で御挨拶できることを光栄に思います。2022年の発足以来、岸田総理と日本政府の御尽力により、このイニシアティブが発展してきたことに深い感動を覚えます。この試みは、平和と世界の安全保障に対する揺るぎないコミットメントを反映しています。

私は2018年に長崎を訪問したことを鮮明に覚えています。そこは核の過去の傷跡が残る場所であると同時に、平和な未来への希望を象徴する場所でもあります。そこで私は、「私たちのコミットメントは、平和のために、そして核軍縮のために働き続けることです」と述べました。この言葉は、今も私のコミットメントの礎となっています。本日、私は同じ強さと信念をもって、この言葉を再確認します。

軍縮を支援するためには、広範で透明性のある民主的な多国間の議論が必要です。核兵器の脅威は、依然として現代における喫緊の課題の一つです。核兵器の存在は、現在の世代だけでなく、これから生まれてくる世代にも絶え間ないリスクをもたらします。従って、「核兵器のない世界」を実現するためには、私たちの総力を結集することが不可欠です。

私たちのコミットメントは、完全かつ不可逆的で、検証可能な軍縮という明確なものでなければなりません。これを達成するためには、核兵器国に対し、国際社会との対話を強化し、相互信頼を築き、透明性を強化し、リスクを低減するよう、常に呼びかけなければなりません。

核兵器禁止条約は良いニュースです。なぜなら、この種の兵器が再び使用されないようにする唯一の方法は、その禁止と廃絶であるからです。

私は、核兵器禁止条約において市民社会が果たした重要な役割を強調したいと思います。核兵器禁止条約についての認識を高めるためには、私たち市民の声が不可欠だからです。

この賢人会議の活動は、これまで以上に不可欠なものです。皆様一人ひとりが、核拡散との闘いにユニークで貴重な視点をもたらしています。私たちは共に、核兵器の削減と最終的な廃絶を提唱しなければなりません。外交、対話、教育は、この努力における重要な手段です。

私たちは知恵と決意をもってそれらを行使しなければなりません。

私たちは、核兵器の使用がもたらす恐るべき人道的結末、そして核兵器の保有と使用が国際人道法及び国際人権制度と相容れないことを忘れることはできません。

長崎と広島遺産を無駄にしてはなりません。これらの都市は、私たちの活動の緊急性を思い出させてくれる生きた材料です。私たちは、「核兵器のない世界」は単なる理想ではなく、達成可能な目標であるという決意と共に、希望をもって前進しなければなりません。